

「自己実現」ナポレオン・ヒル

人前で話をする場合、話し手の心の姿勢が言葉以上に雄弁に聞き手に作用する。同じように、文章の場合でも、書くときの心の姿勢は、記された文章の背後から、読む人に語りかけるのである。

心構えこそがすべてである。私たちの出会うあらゆる経験に決定的な影響を与え、それと同時に、常に私たちの完全な支配下にあるからだ。心構えを導いていくには、まず動機と目的が必要である。何をしたいのかという望みが明らかでなければ、どうしようもない。

人生と名付けられた、この束の間の歳月を、私たちがこの地球の上で過ごしているのはなぜなのか。

およそ人間にとって経験することは、すべてその人の利益につながるのだ。不快きわまりない、自分に痛手しか与えなかったと思い続けていた経験も、よくよく振り返ってみると、その一つひとつが、実は、今の自分の長所の大部分を形作っていたのである。

人間はもともと、前向きな生活習慣を身につけ、それを自分のものとして役立てていくように創られているのである。

教育の目的、少なくとも教育が目指すべきものとは何だろうか。それは、個人が内面から成長し、発展するのを援助し、絶え間なく変化し続ける思考の過程を通じて、心が広がりを持ち、前進するようにすることである。そして、最終的に、自分の持つ潜在的な能力を見出し、自分の問題は自分で解決できるようになる。これが教育のすべてである。

変化は、自分自身ばかりでなく、社会全般をもっと広い目で見て理解する力を与えてくれる。変化の中において、融通の利く性格、それはどんな状況にも自分を順応させていく能力だ。魅力的な人間をつくる重要な要素である。

自然は、人間の協力がある限り、穏やかな形で次から次に変化へと導いてくれる。しかし、変化の法則を無視したり、従わなかったり逆らったりすると、自然も人間に対して過激な手段に訴える。

挫折感、悲しみなどは、それを経験する人にとって素晴らしいものにもなれば、致命的な失敗にもなるのである。その人にとってどちらの状況になるかを決めるのは、ひとえに状況に対する心構え次第である。ある人にとってはつますきの石である。だが別の人にとっては、辺り一面を見晴らせる人生の高みへと登る踏み石となるかもしれない。

幸福とは、主として自分の幸運を他人と分かち合うことから得られるものだ。他人が自分のことをどれだけ心がけてくれるかは、まさに自分が相手にどれだけ与えたかによるのだ。

悲しみに出合ったら、自分を甘やかさずに周囲を見渡し、自分より深い悲しみを持った人を見つけるのだ。そして、その人が悲しみを乗り越えられるよう援助することだ。するとどうだろう。悲しみが薄らいでいくではないか。自分の悲しみが、それを癒す特効薬に変換して、心身に作用しているのだ。この種の薬は、ほかの様々な苦しい体験にも効き目を現す妙薬なのである。

あなたが考えているより、残り時間は少ないのだ。自分に与えられている時間を、希望を持って、今、最大限に活用することだ。

何の知識も承諾もないまま、人はこの地上に現れ、ほんの束の間、人生という偉大な学校にとどまると、自分で承知したわけでもないのに、別の英知の地平へと移るのである。

人間はこの世で束の間、自己を表現するが、そこにある自然の真の目的は、人間を教育することではないだろうか。

どんな思考、計画、目的も、はっきりと表現されなければ、潜在意識は応えてくれない。

考え、願い、目的を何度も声に出して繰り返す。熱意を込めて繰り返せば、それに応えて潜在意識は賢く活動してくれるのだ。